様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　６ 月 １３ 日現在

機関番号：３２６２１
研究種目：若手研究
研究期間：2019～2021
課題番号：１９Ｋ１３１１４

研究課題名（和文）環大西洋会衆派ネットワークにおけるEdward Taylorの詩と思想

研究課題名（英文）Edward Taylor's Poetry and Ideas: A Study of his Transatlantic Network

研究代表者
皆川　祐太（MINAGAWA, Yuta）

上智大学・文学研究科・研究員

研究者番号：６０８２３３３３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,900,000円

研究成果の概要（和文）：エドワード・テイラーの初期の詩と思想を、環大西洋ネットワークという観点で考察する研究を予定していた。環大西洋ネットワークという点については在外研究の時間を十分確保することができなかったため、成果をあげることが困難だったが、彼の初期の詩作品を分析するという目標は部分的だが達成できた。その中で、これまで低く評価される傾向にあった、彼がハーバード大学に在籍していた時代に書いた詩作品の再評価をすることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
エドワード・テイラーという、植民地時代アメリカの重要な詩人の全体像を掴む上で不可欠な視点を提供することができた。例えば、テイラーに関する研究は、常に中期から後期に注目する傾向にあるので、初期の思想や詩については十分行われていないのが現状である。しかし、本研究においては彼の初期の作品に着目したので、これまで明らかにされてこなかった彼の詩的技巧に光を当てることが出来た。

研究成果の概要（英文）：I planned to study Edward Taylor's early poems and ideas from the perspective of the Transatlantic network but I could not have satisfactory results. However, I could partially achieve my goal of analyzing his early poetic works. It is well known that the images he used in his early works were also used in his later ones. Still, when we look at the structural aspect of his poems, we notice that the earlier works can be more complex than his later ones. This point has not been examined much before, and I believe it has led to a re-evaluation of Taylor's poetry.

研究分野：アメリカ文学

キーワード：植民地時代アメリカ　ピューリタン　ピューリタニズム　エドワード・テイラー　アメリカ詩　ハーバード大学

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

（１）申請時における本研究の背景には植民地時代のアメリカ文学研究の最新の潮流がある。近年、環大西洋という視点が導入され、大西洋両岸をまたぐ人的かつ思想的なネットワークが、どのようにアメリカの思想や文学を作り上げたのか、頻繁に研究されている。つまり、アメリカを研究する際、アメリカ一国にのみ注目するのでなく、大きな人的・思想的な関係性、グローバルな力学に着目することが、現在の植民地時代アメリカ文学研究の大きな流れである。本研究は、こうした流れを踏まえている。

（２）申請時における動機だが、以上に述べた潮流を踏まえた研究が、エドワード・テイラーという植民地時代の代表的な詩人については十分行われていなかったことがあげられる。彼はイングランドからニューイングランドへ渡ってきたいわゆるピューリタンの一人であり、しかもイングランドにおいてある程度の社会経験を経た後に、アメリカへ来ている。もしかすると、彼はイングランドで高度な教育を受けていた可能性もある。こうした点から、彼の詩と思想を環大西洋ネットワークという視座より考察することで、これまで明らかにされてこなかったテイラーの思想的特徴を指摘することができるだけでなく、環大西洋ネットワークの新たなる側面も明らかにできるのではないかと考え、申請をした。

２．研究の目的

研究の目的は、まず明らかにされていない部分が多い、エドワード・テイラーがイングランドにいた時代、すなわちニューイングランドに渡って来る前の時代に着目し、彼がどのような人物と出会い、どのような思想を学んでいたか明らかにすることであった。次に、彼がハーバード大学に在籍していた時代に着目し、こうした人的・思想的な関係性が彼の思想形成にどのように影響を与えたのか、考察することも目的の一つだった。

その中で、テイラーがイングランドから持参した推薦状を入手し分析することを予定していた。というのは、誰が彼をハーバード大学へ推薦したのか明らかになれば、彼の思想的かつ人的なネットワークが環大西洋に広がっていることの証左になるし、こうしたネットワークがどのような人物を軸に形成されていたのかも、明らかになるからである。

３．研究の方法

研究の方法は、第一に資料の分析である。現地のアーカイブスや図書館でエドワード・テイラーに関する資料を探す。そして、発見した資料を解読し、先行研究と照らし合わせながら、その内容を精査する。

次に、詩作品の分析である。基本的に詩作品は出版されている。だが、現地で新しい資料を分析する上で新しい詩作品を見つける可能性もあったので、出版されている詩と新たに発見した詩の両方を考察することを念頭に置いていた。

４．研究成果

本研究課題の成果だが、当初全く予期していなかった新型コロナウィルスの世界的な蔓延により在外研究の時間が制約され、環大西洋ネットワークに関する研究を行うことは困難になってしまった。そこで、出版されている資料を使い研究をすることができる対象に目を向け、エドワード・テイラーの初期の詩作品の分析を中心に行い、その再評価をするという目標へと少し研究の方向性を変化させた。

主に、中期～後期に書かれた作品を評価することがあっても、初期の作品については低く評価されることが多い。だが、彼が初期から後期にかけて用い続けた比喩（「機織りのイメージ」）に注目すると、異なった見解を得ることができた。すなわち、詩的技巧の面では初期の作品も中期～後期のものに劣らないのだ。

具体的にいうと、中期～後期の作品はほぼすべてが信仰に関するものになり、テーマが一元的になってしまう。そのため、解釈の余地が狭まってしまっている。確かに、用いられるイメージやイメジャリーは初期の作品よりも高度になっているが、内容は信仰に関するものに限定されるので単純化してしまっている。だが、初期の作品は日常的な事柄に言及しつつ、その裏で神に対する畏敬の念が表現されている。つまり、二重構造になっているのである。こうした構造面での複雑さは、中期以降では見られない。

最初に述べたが、予期しない研究環境の変化により、予定していた研究を行うことができず、環大西洋ネットワークに関する点については成果をあげることはできなかった。しかし、このような状況から、出版されている資料に注目することになり、その結果初期の詩作品の再評価をするという流れになった。テイラーの詩作品の研究の歴史では、初期の作品の再評価はほとんど行われていない。そのため、出版されている文学史の教科書には彼の中期以降の作品しか言及されない傾向にある。だが、本研究により明らかになった点を踏まえると、こうした傾向には問題があることが分かる。海外で研究できなかったからこそ、テイラーの詩作品の精読に時間を割くことができた点は、一つの成果であろう。

また、新しい研究のテーマも見えてきた。本研究で扱った彼の詩の一つは、ハーバード大学で一つの演説として彼が発表した作品である。演説詩というジャンルに分類されるだろう。これは、大学公認の詩である（正確にいえば、教育課程の一環だ）。よって、今後の展開として、「ハーバード大学における詩」というトピックが浮かび上がってきた。彼が残した演説詩に類する作品は、彼以外のハーバード大学の学生も書いていたので、今後もし機会があれば、その作品を収集したい。そうすれば、この大学の知的風土が生み出した文学的伝統に光を当てることになり、アメリカ文学史の新しい側面を描くことができるかもしれない。このような研究のきっかけとして、本研究の成果は生かされるだろう。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計0件

〔学会発表〕　計1件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 皆川祐太
２．発表標題 エドワード・テイラーの詩作品における機織りのイメージの展開：「最後の演説」と「家政」を中心に
３．学会等名 日本アメリカ文学会東京支部
４．発表年 2022年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

アメリカ思想史研究：植民地時代アメリカ文学とEdward Taylor https://edwardtaylorwestfield.blogspot.com/

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関